

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	3390300154		
法人名	サンキ・ウエルビ株式会社		
事業所名	サンキ・ウエルビ 小規模多機能センター大崎		
所在地	岡山県津山市中原37-1		
自己評価作成日	平成26年2月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kani=true&JigyosyoCd=3390300154-00&PrefCd=33&VersionCd=021
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階
訪問調査日	平成26年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様・ご家族の思いに沿って出来る限り在宅での生活が維持できるよう支援していきます。 緊急時のお泊りや通い・送迎時間の変更などに柔軟な対応をし、ご家族の負担軽減に努めています。 地域との交流を大切にし、地域行事への参加やボランティアの受け入れ等、開かれた事業所でありたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は津山の北部に位置し、玄関前は主要道路であるが、周りを見渡せば山や畑に囲まれたのどかな場所にある。開設して2年目を向かえるが、住み慣れた地域で出来る限りわが家での生活が維持出来る様、家族、利用者の思いに添った支援をしている。昨年プライバシーマーク取得の為、職員が勉強会や研修を重ねた結果、本年度取得する事が出来た。法人内での資質向上への取り組み、書類の完備、職員の研修、家族間の信頼等、1年間の努力が実を結んでいる。近所の人が通りがかりに立ち寄りお喋りをしたり、お茶を飲んだり、地域密着型施設としての役割は十分果たせているとても素晴らしい施設だと感じた。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	センター会議において企業理念・基本方針の唱和を行い、職員一同理念の共有・意識付けを図っている。またセンター独自の理念も事務所・ホールに掲げ実践に努めている。	企業理念、基本方針、事業所の理念、6S等を皆が良く見える事務所やホールに掲示している。申し送りやセンター会議で唱和し、共有や意識付けをして、理念に沿ったケアの実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の見学者の受け入れや地域行事への参加、ボランティアの方の来所等、交流を行っている。	地域のとんど祭りや、文化祭に参加したり、事業所の行事やイベントに美作大学の学生や地域のボランティアが参加し、盛んに交流が行われている。ホームに見学者が訪れサービスに結びついている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの電話や相談があった際には、その都度お話を伺っている。地域交流を通じて地域の方々に発信していきたいと考える。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の日々の生活状況や取り組み、課題などについて報告し、ご家族様・地域・行政の方々から意見や情報をいただいている。その内容についてはおたよりを作成しご家族にも報告している。	運営推進会議は2ヶ月に1回包括センター、介護課、連合町内会長、公民館長、民生委員、家族、利用者等沢山の人が参加している。活動状況の報告を行ない、活発な意見交換がなされサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営していく上で疑問点・問題点等あればその都度担当者に相談して指導・助言を受けている。	市の担当者に問題や、疑問点があればその都度相談、助言を頂いている。消費者被害防止の出前講座をして頂き事なきを得た事もある。市の連絡協議会に参加し、協力関係を築いている。介護相談員の来訪も年2回ある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠しておらず、ご利用者様の外出時は職員が付き添う。マニュアルを置いて日頃から身体拘束を行わないよう正しい理解に努めている。現任研修(H25. 11実施)でも取り入れている。	身体拘束を行わないケアを目指し、マニュアルを作成し研修を重ね、理解に努めている。玄関は施錠せず、自由に出入りし、外出時は付き添い、寄り添うケアを心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様の状態は話し合いで共有し、排泄・入浴介助時には特に注意し観察している。ささいな事でも異常があれば報告・相談している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、伝達研修を行っている。全職員が理解できるよう、本年度研修もスタッフ希望者が参加予定。制度利用が必要と思われる方に対してはご家族へ情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご利用者様・ご家族様から希望等を聞いた上で契約書・重要事項説明書に沿って、理解していただける様説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様の意見・要望があった場合、申し送りを行い全職員に周知し運営に反映させている。お客様ご意見シートも活用している。また、どなたでも活用して頂けるようご意見箱を設置している。	契約前に情報収集を行い、推進会議や送迎時に意見や要望を聞き取り、意見シートに情報を集約している。連絡ノートや意見箱を活用し、職員に周知して運営に反映している。おおさき便りを発行し、行事報告や情報を外部に発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のセンター会議において職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月センター会議を行い、意見や提案を聞く機会としている。年1回個別に面談を受け、自己の能力開発、質の向上、やりがいに結び付いている。各人が、利用者の担当や各係りとなり、一致協力のもと運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力・向上心等により適正且つ正当に評価を行い、給与・やりがいに反映されている。資格取得の為の支援や各自目標を決め向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の現任研修を行っている。外部研修は希望があれば勤務の調整を行い参加している。組合でも様々な研修や講座を企画し、職員への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に参加し、情報交換や交流を図っている。他センターの取り組みを参考にしながらサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用までの間にできる限りお会いする時間を作り、困っている事や希望を伺い安心してサービスを受けられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いをしっかりと伺い不安や要望についてどのような対応が必要か一緒に考え出来る限り不安を減らしサービスの導入を図るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様・ご家族様の状況把握に努め小規模以外のサービスを含め必要なサービスを提供できるよう調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのご利用者様が可能な範囲で役割を持てる様に食器拭きや洗濯たたみを一緒にお手伝いして頂き、共に時間を過ごすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での様子を報告したり、自宅での様子をお伺いすることで、ご家族様のサポートをしながら共にご利用者様を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・親戚の方が訪ねて来られた際には個室へと案内しゆっくりとした時間が過ごせるように配慮している。また、手紙のやりとりのサポートやセンターにて電話の取次ぎを行うなどの支援も行っている。	知人、友人、親類が気軽に訪ねて来て、ゆっくり過せる様に配慮をしている。ホーム向かいにある朝市の馴染みの人から野菜や果物が届けられる。訪問理美容も利用している。家族とお墓参りや法事等馴染みの場所に出掛ける事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の交流がしやすいように職員が間に入るなどして良い関係作りに努めている。ご利用者様同士の相性なども考慮した上で席への誘導を行うようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で契約が終了した方でも復帰の時には相談できる体制にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を決めモニタリングを行い、ご利用者様の意向・状態把握が出来るよう心がけている。困難な場合はカンファレンスを開催し、本人本位の暮らし方が出来るよう検討している。	全員を良く理解する為に担当制とし、家族、利用者個々の思いや意向を把握出来る様にしている。困難な場合はカンファレンスを行い、表情や会話から汲み取り、本人本位の暮らし方が出来るように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時、関係機関・ご家族様からの情報収集を行い職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	通いの連絡ノート・送迎時・電話などでご家族様とご利用者様の状態などの情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様・ご家族様と担当職員を交えて担当者会議を開催し現状の課題を確認し介護計画を作成するようにしている。	業務日誌、意見シート、モニタリング等で集約した意向や要望を、利用者、家族、職員を交え、意見交換や話し合いを行い、課題を確認し、3ヶ月に1回見直しをしている。更新、変更時にカンファレンスを行い、適切なプラン計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容についてサービス提供記録へ記入。管理日誌や申し送りノートを通じて職員間で情報共有し、必要に応じて計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の持つ柔軟なサービスと福祉用具・住宅改修・訪問看護などを組み合わせ、その方にあった支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域担当の民生委員・包括支援センターと連携し何かあればお互いに情報共有し相談援助を仰いでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様・ご家族様の希望に沿ったかかりつけ医に定期受診を実施している。基本的にはご家族対応をお願いしているが必要な場合は受診の付き添いを行っている。	かかりつけ医は家族対応を基本に受診支援している。独居や家族から依頼があれば看護師等が受診支援をしている。協力医の往診が必要になれば依頼は可能である。看護師と医師の連携が図られ適切な医療が受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご家族様からの情報や利用中の変化などを報告・相談し指示を仰ぎ、職種間の連携を取り、状態の把握とケアの統一に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は看護師・ケアマネジャーが医療機関を訪問し、病状・入院期間等病院関係者と情報共有を行い連携を図るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者様・ご家族様の意見を尊重し事業所でできる支援について提案する。また、ほかの関係機関と連携を図りながら安心して過ごして頂けるよう支援を行っている。	利用時、事業所が出来る支援について提案し、話し合い、必要な方には看取り支援を行う。医療が必要になれば、医療関係や関係機関と連携を図り、適切な医療が受けられるように支援を行う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時におけるマニュアルを作成している。迅速な対応が出来るよう研修・訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を作成し役割分担を行っている。非常災害時の対応についての研修を行っている。年2回の避難訓練を予定。	消防計画を提出し機器の点検を行っている。マニュアルを作成し、非常災害時の研修を行っている。消火・連絡係等役割分担を決め、年2回地域の協力を受けながら避難訓練をしている。非常用持ち出し袋を用意し、備蓄も行っている。	すぐ近くに消防署が建設されるとのことなので、何事も相談し、助言を頂き、消防署を巻き込み、地域連携の強化に繋がれば良いと思う。今後を期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	H25/10/10にプライバシーマークを取得。個人情報取り扱いや守秘義務を徹底するよう研修を行っている。ご利用者様の尊厳を損なわないケアをするよう努めている。	昨年職員で勉強会を重ね努力した結果、プライバシーマークの資格を取得する事が出来た。個人情報、守秘義務等を徹底し、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわないケアに努め、更に研鑽を重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の話を傾聴しながらご本人が意思決定を出来るよう声かけをしたり、話題の提供を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを把握し、その日の体調や気分に合わせて無理強いしないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中と夜間の区別が出来るよう着替えをしてもらい、髭剃りも必要時介助を行う。散髪も希望の方がいる場合には訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	机拭きや食器洗い、食器拭きなど職員と一緒にして頂いている。手作りのおやつ等も楽しみにされている。	業者から食材の提供を受けているが、手作りにこだわり、催事にお寿司、手作りおやつ、誕生日にケーキ、かき氷、ソーメン流し、黒姫うどんの外食も楽しんでいる。テーブル拭き、下膳、食器拭きを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一人ひとりの状態に合わせた量や形態で提供している。水分量も毎日記録し量の確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし、見守りや介助等一人ひとりに合わせた対応で口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行い出来る限りトイレでの排泄を心がけている。	排泄記録を基に定期、随時に声掛け、誘導している。トイレにファンレストテーブルを設置し、便秘の人に腹圧を掛け解消出来るようにしたり、長時間座れない人に活用している。排泄はトイレでを心掛け自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり体を動かしたりすることにより便秘予防に努めている。記録を残し、一人ひとりの排便状況を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日はご利用者様やご家族様の希望を伺った上で決めているが、状態によっては曜日を振り替えたり、シャワー浴に変更したりしている。	週3日を基本に、習慣や状況、体調に合わせて、個々に対応している。毎日入りたい人には入って貰い、拒否の方にはシャワー浴にしたり、話し合い、納得して入浴して貰っている。ゆず湯等季節を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて安心して休息できるように時間や場所を確保できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては看護師が管理。不在時などのためにも全職員に伝達・指導している。個人別に管理し、誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや食事の片付け、食器拭き、掃除等できる方には声掛けをしながら職員と一緒にやっている。また、散歩やドライブに出かけ気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出等の行事を行ったり、地域の行事にも参加するようにしている。	近所の散歩や地域の行事に出掛けている。また花見や紅葉狩りに噴水公園、グリーンヒルズに遊びに行き、初詣には福力荒神様に出掛けている。ドライブで勝北公園等へ黒姫うどんを食べる等外食も楽しんでいる。家族と外出する事もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭の持ち込みは禁止させて頂いている。連泊の方等は受診・買い物等、外出支援の際に声掛けをしながら出来る事はして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人に電話をしたいという要望があれば対応している。手紙の受け取りや代行して出すこともある。携帯電話の持ち込みも許可している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や手作りの作品で環境作りをしている。窓ガラスは二重で、外部の音が聞こえにくいようにし、騒音にならないようにしている。	季節が感じられる様にお雛様を飾り、花を生け、手作り作品を壁に貼っている。ソファや畳の間で利用者は自由に好きな場所で寛いでいる。窓ガラスは二重で騒音にならない様配慮し、ウッドデッキでお茶を飲み穏やかな時を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・椅子の配置により思い思いに過ごせるように努めている。ソファや和室で一人で過ごせたり横になられたり出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋も広くゆったりしていて馴染みの物を持参頂くなど落ち着いて過ごせるよう努めている。	テレビを持ち込み一人のんびりとテレビを見て過す人、好きな本を持ち込み部屋で拡大鏡を使い楽しんでいる人等、使い慣れた品物を持参し、自分の部屋作りをしている。ベッドの配置を工夫し思い思いに居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、バリアフリーとなっている。廊下・トイレ・浴室等の建物のいたる所に手すりを設置している。出来る事は自分でして頂き、残存機能を生かすよう心がけて介助を行うよう努めている。		